

特集

直腸癌に対する
ロボット支援下手術について

各科日より

知ってはいるけど、やるのは怖い？～鼻うがい～

耳鼻咽喉科

4 P

臨床工学技士～それは医療機器の専門家です～

5 P

排尿自立指導はじめました

泌尿器科外来

6 P

新任医師紹介

7 P

病院のニューフェイス

8 P

院長伝言板

8 P

2・3 P

市立砺波総合病院憲章

わたくしたちは、市立砺波総合病院の職員であることを誇りとし、愛と奉仕の精神のもとに、病気で悩める人々を癒すことに互いの心を結集し、この憲章を定めます。

市立砺波総合病院は

- 1 患者さんの権利を尊重します
- 1 医療の安全を追求し 信頼される医療を提供します
- 1 医療・福祉・介護・保健分野との連携に努め 地域医療の推進に努めます
- 1 職員が働く喜びと誇りの持てる職場をめざします
- 1 健全な病院経営に努めます

理念

地域に開かれ
地域住民に親しまれ
信頼される病院



市立砺波総合病院
Tonami General Hospital

〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号
TEL 0763-32-3320(代表) FAX 0763-33-1487(総務課)
E-mail tgh-somu@city.tonami.toyama.jp
ホームページ <https://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

直腸癌に対する

ロボット支援下手術について

外科 大腸・肛門外科 吉田 貢一



きてしまった直腸癌の患者さんでは、時に癌と一緒に肛門も取り除く必要があるからです。手術後は装具を用いた人工肛門での生活になります。

当然、なるべく肛門を残したいという思いは昔から、患者さんはもとより、

患者さんに大腸癌の説明をさせていただく際、人工肛門についての質問をしばしば受けます。人工肛門は大腸癌など様々な病状で選択される重要な治療法の一つです。ただ、一般の方々にとっては、とても不安に思われる治療法ともいえます。人工肛門は緊急手術でない限り、ほとんどは直腸癌の患者さんで選択される治療法になります。直腸の肛門に非常に近い部位に癌がで

医療者にもあります。このため、最近の治療の進歩により、肛門を残すための手術の技術も非常に向上しており、数年前までは到底、肛門を残すことが考えられなかったような患者さんにも肛門を残せるようになってきました。しかし、ここでとても重要なことは、ただ肛門を残すのではなく、再発を抑えつつ、肛門の機能もなるべく残すということです。

当院では、再発の抑制と肛門機能温存にこだわった肛門温存手術に注目して取り組んでいます。これらの治療を支える大きな柱が、腹腔鏡下手術であり、その利点を最大限に生かすオプシオン治療としてロボット支援下直腸切除術と経肛門的直腸間膜全切除術があります。当科では、この両方の治療を積極的に導入して治療しています。今回はロボット支援下直腸切除術にスポットを当ててご紹介します。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」は米軍の医療技術の民間転用によりに1999年に誕生しました。3本の多関節アームと一本のカメラ用アームを用いて、医師が遠隔操作で手術を行います。ダヴィンチの魅力は、高精細3Dカメラによる鮮明な画像のもと、多関節のアームにより、直観的、かつ全く手振れることなく自在に病変部へ



アプローチできることです。この特性は、直腸癌手術において肛門機能に重要な神経を温存するために、非常に有用であるといえます。

ダヴィンチ誕生当初の日本ではロボット手術は自費診療であり、国内での稼働は3台程度でした。しかし、2012年4月から前立腺癌での使用が保険で認可されると、その有用性と安全性が認知され、爆発的に普及しました。現在では国内で約350台が稼働しています。

当院には、2017年に、呉西地区で初の導入となりました。そして、2018年4月になり、ようやく消化器外科領域（食道、胃、直腸）、肺、縦隔の癌、および心臓弁膜症も対象疾患として追加で保険の認可があり、当院では2018年9月から胃癌、2019年11月からは直腸癌に対して導入を開始しています。

消化器外科領域では適応となる患者さんが多いからか、あたかも安易な導入を規制するかのようになり、厳しい基準が設けられているため、ダヴィンチを持っていても消化器外科領域の手術ができない施設もあります。

胃癌と直腸癌の双方に対して、ロボット支援下手術の導入をはたしている施設は呉西では当院のみです。

直腸癌と診断され、告知された際は、癌の心配だけでなく人工肛門の心配もあり、とても不安になると思います。直腸癌の治療は目覚ましい進歩により、いろいろな治療法が開発されてきました。しかし、その一方で、直腸癌の治療法の選択肢が増えたことにより、病態に応じた治療法の選択が非常に複雑になってきています。また、矛盾するようですが、人工肛門も非常に重要な治療法で、近年では非常に進歩しており、決して否定される治療ではありません。病気の不安の解決には正しく、詳しい情報がとても重要です。直腸癌をはじめとした大腸癌などで、不安や気になることがある方はぜひ、当院へご相談ください。

当院への受診をご希望される方は、まず、かかりつけ医の先生に相談していただいて当院外科あるいは大腸・肛門外科への紹介状をご持参ください。当院の受診につ



いて、分からないことがある場合は当院のホームページをご覧ください。よろしく申し上げます。

知ってはいらぬけど、やるのは怖い？〜鼻うがい〜

普段、広告等で『鼻うがい』を見かける方も多いと思います。鼻の不調に効果的と言われても、実際にやるとなると不安でためらってしまいう方も多いのではないのでしょうか。今回はそんな「鼻うがい」をご紹介します。



なぜオススメするの？

鼻うがいは、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎（蓄膿症）をはじめとする多くの鼻疾患への有効性が既に証明されています。鼻つまり、鼻水、くしゃみを和らげてくれる。そんな処置を誰でも簡単に始めることができます。

皆さん一度は経験されたことのある「プールの水が鼻に入ってツーンとする」痛み。そんな痛みはありません。安心して始めてみましょう。

なぜ効果があるの？

鼻には、そもそも鼻の中の汚れをきれいに保つ自浄作用があります。たとえ鼻の中にアレルギーの原因物質が入っても、鼻自体の作用できれいにすることができます。しかし、鼻の入り口近くは自浄作用が弱いので、汚れがなかなか無くなりません。また、鼻の自浄作用にも個人差があり、汚れが溜まりやすい方も

います。そのような場合には、最終的に副鼻腔炎になってしまうこともあります。例えば、洗濯機のフィルターを想像してみてください。汚くなってしまったフィルターのまま、どんなに洗濯機を回しても、洗濯物はきれいになりません。汚れが溜まる一方です。そんな時、皆さんならどうしますか。おそらくフィルターを洗うのではないのでしょうか。

鼻も同じです。鼻が汚くなり、本来の自浄作用でキレイにならないのであれば、鼻についてしまった汚れを洗い流してしまえばいいということになりませんか。洗濯機の例と同様に、鼻うがいでも症状の改善効果が生まれるわけです。

どうやってやるの？

実際に鼻うがい、始めてみる気になつていただけたでしょうか。それでは方法についてご説明します。

1 キットを購入する

最近ではドラッグストアでも見かけるようになったと思います。また、当院の売店でも販売していますし、ネット通販でも気軽に購入ができます。

2 洗浄液を用意する

そのまま使用できる洗浄液を購入する方法や、販売している粉を水に溶かして行う方法、自作する方法等があります。食塩だけで簡単に作ることもできますが、慣れないうちは洗浄液を購入しても良いかもしれません。自作する場合は、煮沸消毒を行い、滅菌した水で作ります。

3 鼻に洗浄液を通す

ゆったりと鼻で息を吸い込みながら、優しく水を流していきます。この時、ごっくんと飲み込むような動作をするのは避けてください。口や反対の鼻の穴から洗浄液が出てくれば、しっかり行えています。

最後に、優しく鼻をかんで、鼻から出てくる洗浄液を拭き取り終了です。

いつやるの？

オススメは朝と夜です。特に夜は鼻洗浄を行うことで、一日過ごすことでついた汚れを効果的に洗い流すことができます。

また、頻繁に行いすぎると鼻粘膜を傷つけてしまうので、1日2〜3回が効果的です。

最後に

有用性のわりには、実際に鼻うがいをしている方が少ないように感じましたので、この場を借りてご紹介しました。

現在、花粉症に対しては、種々の非常に有用な内服薬が存在しています。しかし、妊娠されている方ははじめ、様々な理由から内服できない方もいらっしゃると思います。特にそういった方には、試していただきたいです。

しかし、鼻うがいは決して万能という訳ではありません。専門的な治療が必要な場合もあります。お困りの際は耳鼻咽喉科へご相談ください。



臨床工学技士 ～それは医療機器の専門家です～

病院の中には医師や看護師の他に、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士などの医療職が働いています。臨床工学技士も病院で働く医療職です。他の医療職らと連携し、チーム医療の一員として大きな役割を担っています。

臨床工学技士ってなんだろう？

臨床工学技士の特徴は、医学と工学の知識を併せ持ち、生命を支える重要な医療機器を扱う専門職です。法令では、臨床工学技士は「医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を業とする者」とされます。

①生命維持管理装置を操作する

ここで言う「生命維持管理装置」とは、呼吸機能、循環機能、代謝機能を代替または補助する装置をさします。

呼吸補助装置

肺炎や肺水腫などが重症化し、十分な呼吸機能を保つことが出来ない場合に使用します。

循環補助装置

急性心筋梗塞や心筋炎などにより、心臓のポンプ機能が著しく低下した場合に使用します。

代謝補助装置

腎機能が低下し、老廃物や尿を排泄できなくなると、尿毒症・心不全に陥るため人工透析装置を使用します。

臨床工学技士はこれらの他にも、専門性の高い医療機器の操作にあたっています。

②医療機器の保守点検をする

保守点検には「日常点検」と「定期点検」に分類されます。

日常点検は、医療機器を使用する際に安全に使用するために行われる点検です。使用開始前に行う始業時点検、使用中に行う使用中点検、使用後に行う終業時点検に分けられます。

定期点検は、一定期間使用された医療機器を詳細に点検し、機器の性能を確認し校正すると共に、製造販売者が推奨する消耗部品を交換する事で、次の定期点検までの性能の維持を確保するために行う点検です。

医療機器の分類

クラス分類	クラス1（一般医療機器）	不具合が生じた場合でも、人体へのリスクが極めて低いと考えられるもの
	クラス2（管理医療機器）	不具合が生じた場合でも、人体へのリスクが比較的低いと考えられるもの
	クラス3（高度管理医療機器）	不具合が生じた場合、人体へのリスクが比較的高いと考えられるもの
	クラス4（高度管理医療機器）	不具合が生じた場合、生命の危険に直結するおそれがあるもの



人工呼吸器



血液透析・持続緩徐式血液濾過など

特定保守管理医療機器

医療機器のクラス分類に関わらず、保守点検・修理などに専門的知識や技能を必要とするものを「特定保守管理医療機器」といいます。

平成19年に改正医療法が施行され、医療機器の保守点検が義務化されました。市立砺波総合病院には約4,000台の医療機器があり、それらの総合的な保守管理を担っているのが医療機器管理室です。

医療機器管理室では、特定保守管理医療機器で管理医療機器・高度管理医療機器に該当する医療機器に対して定期点検をしています。

定期点検件数は、年間約1,000件にのぼります。また、日常点検は年間約4,000件行っています。また、日常点検は年間約4,000件行っています。動作異常や故障が疑われる場合には、臨時点検を行います。臨時点検は年間約900件になります。

現在、市立砺波総合病院 臨床工学科には8名の臨床工学技士が所属し、院内の多くの領域で業務にあたっています。

透析室 透析回路の組み立てやプライミング、穿刺・返血、透析中の透析装置のチェックなどを行い、透析装置に供給する透析液を作る水処理室の整備などを行っています。	手術室 麻酔器などの始業点検の他に、ペースメーカーの埋め込み時のプログラムの操作や、手術室で使用される医療機器のトラブルにも対応しています。	医療機器管理室 院内で使用される医療機器を安全に効率よく使用できるように、一元に中央管理としており、輸液ポンプや人工呼吸器などの医療機器の貸し出し返却を行っています。 返却後に使用後点検や定期点検を行っています。
集中治療室 人工呼吸器のセットアップや補助循環装置や血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作を行います。	心臓カテーテル室 検査や治療で使用される医療機器の操作などを行い、緊急時には除細動装置や補助循環装置などの操作を行います。	
救急室 人工呼吸器のセットアップや体外式ペースメーカーの操作、除細動器などの点検を行います。	ペースメーカー ペースメーカー外来でのペースメーカーチェックや設定変更などを行います。	



排尿自立指導はじめました

Q 排尿自立指導とは

A 手術や重い病状の時など自分で排尿ができない場合、治療の一貫として膀胱にたまった尿を排出するために、尿道カテーテルを留置することがあります。しかしカテーテルを留置することで、尿路感染や抜いた後に排尿の問題をおこすことがあります。このような弊害をできるだけおこさないために、排尿に係わる専門的知識を持った排尿ケアチームが、主治医・看護師とともに、カテーテルを1日でも早く除去し排尿自立に導くことをいいます。

Q 排尿ケアチームとは

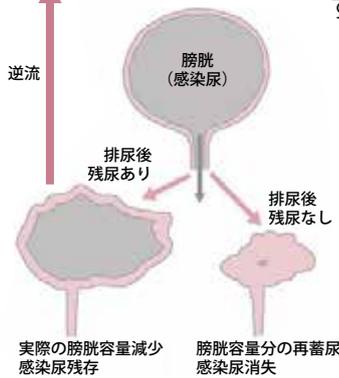
A 泌尿器科医師・研修を受けた看護師・理学療法士で構成されたチームです。チームは、

尿道カテーテルが抜去可能か、抜去した後に問題がないか、また問題がある場合は原因を検討し、一人ひとりの患者さんにあった適切な排尿ケア計画を立てます。そして、主治医・病棟看護師とともに、問題解決に向けたケアを実践していきます。



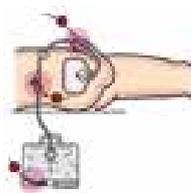
腎盂腎炎
敗血症
腎不全

水腎



Q なぜ1日でも早く尿道カテーテルを抜去した方がいいのか

A 尿道カテーテルを長期間留置しておくと、管を伝って細菌が侵入し、尿路感染をおこしやすくなるからです。また、一時的に膀胱の機能が働きにくくなり、抜いた後も尿がすっきり出せないことがあります。カテーテルを抜いたのにも尿が残ったままになると、腎臓に尿がたまり水腎症になることがあります。また、一旦膀胱にたまった尿が腎臓へ逆流し、腎機能低下につながるおそれがあります。膀胱や腎臓を守るために、尿道カテーテルをできるだけ早期に抜去することが重要です。



Q 排尿の問題とは

A 腎臓で作られた尿を一時的にため、排出する機能を下部尿路機能（膀胱と尿道）といいます。正常な排尿は、自律神経により調整されます。元々の病気や尿道カテーテルの留置によって、この自律神経に問題が生じると正常な排尿ができなくなります。下部尿路の排尿に問題が生じることを下部尿路機能障害といいます。

障害は以下の3つに分類されています。

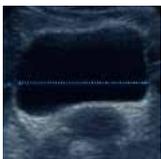
- 1 尿を出す障害⇨排出障害
- 2 尿をためる障害⇨蓄尿障害
- 3 尿をした後でも残っている感じがある
(残尿感がある)⇨排尿後障害

Q 排尿の問題に対してどのようなことを行っているのか

A ①尿道カテーテルの必要性について抜去可能かどうか毎日評価します。

②ももとの排尿に問題がないか問診や検査にて確認するほか、尿路感染をおこしていないか、画像やデータなどでも評価します。

③尿道カテーテル抜去後は、適宜残尿測定を行いながら一人ひとりの排尿の状態を評価します。



エコーで見た膀胱



患者さんに負担の少ない方法で残尿が測れるよう、病棟にエコーの機械を導入しました

Q 残尿とは

A 排尿後でも、尿がすっきり出せず、膀胱内に尿が残ってしまっていることをいいます。

排尿状態を評価するためには、残尿測定は有効な検査方法となります。

Q 残尿測定とは

A 排尿後に超音波または導尿によって、膀胱内に残っている尿量を測定することです。
正常値：男性50ml以下 女性100ml以下

排尿の管理を行うことは、腎臓や生活の質を守ることに繋がります。排尿のことで困ったことがあります。ありましたら、病棟担当看護師に伝えていただき、排尿ケアチームにご相談ください。



新任医師紹介



精神科

湯浅 慧吾

地域の皆様の健康を精神的な面からお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひ致します。

循環器内科

中村 翔大

砺波地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願ひ致します。



消化器内科

稲垣 慎吾

消化器疾患を中心とした医療の貢献に努め、地域の皆様が安心して医療を受けられるよう尽力いたします。

外科

黒川 祐貴

地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願ひ致します。



小児科

笠原 理愛

子ども達の元気な笑顔と可愛さに力をもらいながら日々診療させてもらっています。砺波地域の子ども達の力になれるよう頑張ります。

腎臓内科

齊藤 弥束

わかりやすい説明を心がけます。どうぞよろしくお願ひ致します。

並木 佑子

砺波地域の医療に貢献できるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願ひいたします。

耳鼻咽喉科

中沢 僚太郎

鼻、耳、のどを中心に、皆様のお役に立てるよう頑張っています。よろしくお願ひ致します。

産婦人科

布村 晴香

砺波地域の女性、赤ちゃんの健康に寄与できるようつとめます。よろしくお願ひ致します。

形成外科

勢藤 綾花

砺波の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。



整形外科

石野 雄士

骨・軟部組織の疾患だけでなく、脊髄・末梢神経疾患にも対応しています。何でも気軽に御相談ください。

歯科口腔外科

小林 博和

地域住民の皆さんの口腔内の健康増進と、生活の質の向上のお手伝いをします。よろしくお願ひ致します。

放射線科

杉盛 夏樹

画像診断を通して皆様のお役に立てるよう誠意をもって職務にあたります。

谷村 伊代

画像診断医として丁寧なレポート作成を心がけ、皆様のお役に立てるよう頑張ります。



集中治療・災害医療部

武島 健人

砺波を愛し、医師として正義を全うし、一生懸命努力します。よろしくお願ひ致します。

わたしたちが 病院のニューフェイスです!



院長伝言板 熱中症予防 × コロナ感染防止

新型コロナウイルス感染症で不安な日々が続く中、暑い季節を迎えました。感染拡大を防ぐために、「新しい生活様式」として、一人ひとりが感染防止の3つの基本、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いや、3密を避ける等気をつけられていることと思います。しかし、この季節は熱中症のリスクも高まっています。国も「マスク着用により、熱中症のリスクが高まる」と警鐘を鳴らしています。屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクをはず

すことが勧められています。マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。コロナ感染防止だけでなく、熱中症予防にも注意して、「新しい生活様式」を健康に過ごしましょう。



『患者さんの権利を守るために』

1. 当院では、病気を克服しようとしておられる患者さんの人権を尊重し、その経済的・社会的地位、年齢、性別、疾病の種類などにかかわらず平等で最良の医療を提供します。
2. 当院では、患者さんと一緒に病気を克服するために、患者さんが既に実施された診療の内容と、これから行われようとする検査、及び治療の目的、方法、内容、危険性、治療の見通し及び、これに代わる他の治療法について十分説明し、さらに患者さんの治療に対する希望もお聞きし、相互の理解を得た上で、医療を行います。
3. 当院では、患者さんの希望があれば原則として、患者さん本人にカルテを開示いたします。また、他の医療機関にかけり意見を求めるためや、他の医療機関に移られるときには全ての情報をお渡します。
4. 当院では、患者さんのプライバシーを守るために、患者さんの承諾なく当院の医療従事者以外の第三者に患者さんの情報を開示いたしません。
5. 患者さんの権利には義務と責任が伴います。

以上を守り診療することを約束いたします。

診療案内

外来診療受付時間

- 新患 午前 8 時 15 分から午前 11 時まで
 - 再診 午前 8 時 00 分から午前 11 時まで
- ※診療科・曜日によって異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日

土・日・休日および年末年始